

2019年3月期第4四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

■国際旅客について

Q1：第4四半期単独の純単価の前年対比は？

A1：第4四半期単独の純単価については、前年対比で1pt程度のマイナスとなっております。これは、総需要減となった状況下において、一定程度の乗客数を確保することを目指したことによるものです。

Q2：2019年度の計画における単価の動向は？

A2：好調な太平洋路線では上昇、一方で一部路線において戦略的にエコノミークラスを増席した影響もあり、全体では、燃油サーチャージ影響を除くとほぼ前年並みと見ております。

■国内旅客について

Q3：今年度の国内旅客の計画において、ユニットレベニューが前年対比で若干低下する見込みとなっているようだがその要因は？

A3：計画を策定した2018年末から2019年3月までの間、国内線が好調であったため、比較対象となる前年度実績が計画時の想定より上昇いたしました。このため、特に下期のユニットレベニューが前年対比でマイナスとなるようになっておりますが、選好性を高める工夫に取り組むなどして、プラスとなるよう努力してまいります。

■国際貨物について

Q4：国際貨物の今後の見込みは？

A4：2019年度の計画において、国際貨物は前年対比で重量増、単価増を見込んでおります。昨年度は中国向け半導体の輸送減による影響がありましたが、5Gに伴う半導体需要から、今年度下期には伸びていくものと思われれます。

■2019年度計画の費用について

Q5：費用について、2月25日発表の計画から変動はあるか？

A5：特にはありません。整備費については、為替影響以外の増加は見込まれておらず、人件費についても、計画通りに推移しております。